

2020年度「専門特殊研究」研究会一覧

文学学術院

2020年度実施の専門特殊研究会は以下のとおりです。

「科目登録の手引き」も確認してください。

なお、本内容はWebシラバスには掲載されていませんので、ご承知おきください。

【専門特殊研究について】

高度な原典購読や資料解読、数理系の問題演習など、少人数による上級者向けの研究会での成果を、学部での履修単位として認定するための科目です。

<履修について>

- 1科目2単位とし、合計8単位を上限に卒業必要単位に算入されます。
- 年間における登録制限単位数、科目数には算入しません。
- 同一の学期に2研究会（4単位）までの単位認定が可能です。
- 入学後2学期目から卒業見込み学期の前学期まで履修することができます。
- 本研究会は科目登録の結果通知には反映されません。

<成績について>

- 学期終了後、一定の条件を満たした研究会において、十分な成果を収めた学生についてのみ、単位の認定を行います。
- 評価は次学期の初めに行われ、実際に参加した次の学期の単位となります。
- 合格の場合、成績証明書には、「専門特殊研究（主題・担当教員名） 配当年度 配当学期」と記載します。

★各研究会の内容に関するお問い合わせは、以下の担当教員まで直接お問い合わせください。

(以下、学期・曜日・時限・主題名五十音順)

| 春学期 | 火 | 1時限 | 実施曜日・時限 の特記事項 | 担当教員 |
|----------------|----------------|-----|------------------|-------|
| 参加可能年次 2年以上 | 主題 日本近代史料講読 | | | 真辺 将之 |

研究概要

日本近代史にかかわる一次史料(くずし字)の史料を講読する。中程度の難易度のものを自在に読める能力を育成することを目指す。初学者でも参加できるように当初は文字起こしが既にされているものを講読するが、中途より各自に相当量の史料を割り当て、翻刻を作成してもらい、それを参加者全員で検討する。相当量の予習・復習が必要になるので本当に読めるようになりたいという方の参加を求める。

使用文献

市島春城筆記史料(早稲田大学図書館所蔵)ほか
適宜教員より指示する。

活動記録の内容、提出方法

各自に史料を割り当て翻刻を作成し提出してもらう。
その解読度によって評価を行う。

受講者選考方法

面談による。受講希望者は、事前に受講希望理由を、真辺将之(mana@waseda.jp)にメールで提出すること。受講生へは個別に連絡する。

備考

春学期**無****その他****実施曜日・時限の特記事項** 曜日時限は受講者と相談して決める**参加可能年次**
2年以上**主題**
中国近現代文化の諸問題**担当教員**
千野 拓政**研究概要**

中国近現代文化に関する諸問題について、参加者が自分でテーマを決めて、研究を進める力を養成することを目的とする。各学生の興味を持つテーマがそれぞれ異なるため、参加者が自分の興味を抱いているテーマについて資料を読み、それを基礎に交代で発表し、全員で討論することを通して各自のテーマを深めていく方法を取る。発表の際に使用する資料はあらかじめ提示し、参加者全員が目を通してることが前提となる。授業ではその読解、問題点の提示、不明な箇所の確認を行うとともに、発表者のコメントについて討論を行う。そうした作業を通じて、通常の授業では扱えない原文資料の読解、吟味、検討を進める力などを養い、学生の研究能力を高めることを目指す。

(すでに2012年年度秋期から勉強会の形で毎週実施しているが、学生が継続して実施することを強く希望していること、学年を越えて参加を希望する学生がいること、また学生の準備にかかる負担がかなりあることなどを考え、専門特殊研究として実施することを希望する。)

使用文献

発表者が準備する。一部は教員が提示する。

活動記録の内容、提出方法

毎回の発表ならびに学期末の提出してもらう研究活動報告によって評価する

受講者選考方法

第1回目の授業で自分の興味のあるテーマとその研究について簡単なプレゼンテーションを行ってもらい、判断する。

備考

特に指定していないが、大学院進学を視野に入れている学生の希望によって始まった勉強会がもとになっている。今後も同様の希望を持つ学生が中心となると考えている。中文コースのクォーター化に伴い、学期によって開講時間を変更する可能性がある。

春学期～秋学期**火****7時限****実施曜日・時限の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
満洲語文献講読**担当教員**
柳澤 明**研究概要**

清代前期(17～18世紀)において、満洲語は清帝国全体の公用語であり、とくに八旗と内陸アジア地域(東北・モンゴル・チベット等)に関しては、その重要性は漢語よりはるかに高かった。したがって、清代の歴史・文化を多面的に検討していくためには、満洲語の読解力が不可欠といえる。清朝最後の皇帝であった溥儀も、晩年「清史の研究には満洲語が不可欠だが、残念ながら自分は詳しくない」と語っていたという。今年度は、八旗制度に関する根本史料である東洋文庫所蔵「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」を講読していく予定。なお、初学者は満洲語の文字・文法等に関する基礎的なレクチャーを受けた後に、講読会に参加することになる。

使用文献

「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」

活動記録の内容、提出方法

輪読形式でテキストを読み進めます。15回終了時点で、テキストの転写と和訳(各人の担当部分だけではなく、当該期間に講読したテキスト全体)、およびテキストの内容に関する簡単なレポートを提出してもらいます。

受講者選考方法

受講希望者は、4月7日(火)または14日(火)の7時限(19:55～)に、柳澤研究室(39号館4階2415)に来室してください。面談により受講者を選考します。また、柳澤までメール(akiray@waseda.jp)をいただければ、上記以外でも面談時間を設けます。

備考

原則として隔週開講とし、春学期～秋学期を通して計15回行います。火曜7限に設定されていますが、受講者の授業スケジュール等に応じて、曜日・時限を調整することもあります。

秋学期**無****その他****実施曜日・時限の特記事項** 曜日時限は受講者と相談して決める**参加可能年次**
2年以上**主題**
中国近現代文化の諸問題**担当教員**
千野 拓政**研究概要**

中国近現代文化に関する諸問題について、参加者が自分でテーマを決めて、研究を進める力を養成することを目的とする。各学生の興味を持つテーマがそれぞれ異なるため、参加者が自分の興味を抱いているテーマについて資料を読み、それを基礎に交代で発表し、全員で討論することを通して各自のテーマを深めていく方法を取る。発表の際に使用する資料はあらかじめ提示し、参加者全員が目を通してることが前提となる。授業ではその読解、問題点の提示、不明な箇所を確認を行うとともに、発表者のコメントについて討論を行う。そうした作業を通じて、通常の授業では扱えない原文資料の読解、吟味、検討を進める力などを養い、学生の研究能力を高めることを目指す。

(すでに2012年年度秋期から勉強会の形で毎週実施しているが、学生が継続して実施することを強く希望していること、学年を越えて参加を希望する学生がいること、また学生の準備にかける負担がかなりあることなどを考え、専門特殊研究として実施することを希望する。)

使用文献

発表者が準備する。一部は教員が提示する。

活動記録の内容、提出方法

毎回の発表ならびに学期末の提出してもらう研究活動報告によって評価する

受講者選考方法

第1回目の授業で自分の興味のあるテーマとその研究について簡単なプレゼンテーションを行ってもらい、判断する。

備考

特に指定していないが、大学院進学を視野に入れている学生の希望によって始まった勉強会がもとになっている。今後も同様の希望を持つ学生が中心となると考えている。中文コースのクォーター化に伴い、学期によって開講時間を変更する可能性がある。

秋学期～春学期**火****7時限****実施曜日・時限の特記事項****参加可能年次**
2年以上**主題**
満洲語文献講読**担当教員**
柳澤 明**研究概要**

清代前期(17～18世紀)において、満洲語は清帝国全体の公用語であり、とくに八旗と内陸アジア地域(東北・モンゴル・チベット等)に関しては、その重要性は漢語よりはるかに高かった。したがって、清代の歴史・文化を多面的に検討していくためには、満洲語の読解力が不可欠といえる。清朝最後の皇帝であった溥儀も、晩年「清史の研究には満洲語が不可欠だが、残念ながら自分は詳しくない」と語っていたという。今年度は、八旗制度に関する根本史料である東洋文庫所蔵「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」を講読していく予定。なお、初学者は満洲語の文字・文法等に関する基礎的なレクチャーを受けた後に、講読会に参加することになる。

使用文献

「鑲白旗蒙古都統衙門檔案」

活動記録の内容、提出方法

輪読形式でテキストを読み進めます。15回終了時点で、テキストの転写と和訳(各人の担当部分だけではなく、当該期間に講読したテキスト全体)、およびテキストの内容に関する簡単なレポートを提出してもらいます。

受講者選考方法

受講希望者は、9月29日(火)または10月6日(火)の7時限(19:55～)に、柳澤研究室(39号館4階2415)に来室してください。面談により受講者を選考します。また、柳澤までメール(akiray@waseda.jp)をいただければ、上記以外でも面談時間を設けます。

備考

原則として隔週開講とし、秋学期～2021年春学期を通して計15回行います。火曜7限に設定されていますが、受講者の授業スケジュール等に応じて、曜日・時限を調整することもあります。

以 上